

中学校社会

指導のポイント

単元を見通した授業の構想

単元を見通して、社会的な見方・考え方を働かせながら、「見通しと振り返り」を大切にしたい問題解決的な学習を展開します。

評価のポイント

学習状況を把握し、指導に生かす評価

評価場面では、記録に残すだけでなく、生徒一人ひとりの学習状況を把握することが大切です。教師はそのうえで、生徒を支援します。

1 社会科における内容のまとめ

中学校社会科各分野では、学習指導要領の各「中項目」をもって「内容のまとめ」とすることと整理されました。「内容のまとめごとの評価規準(例)」を基に「単元の評価規準」を作成します。

【地理的分野の事例】

「内容のまとめごとの評価規準」(例) から設定した単元の評価規準(例)

[C(3)「日本の諸地域」、小項目「中国・四国地方」]

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・幾つかに区分された日本のそれぞれの地域(中国・四国地方)について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ・①から⑤までの考察の仕方(人口や都市・村落を中核とした考察の仕方)で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域(中国・四国地方)において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件(人口や都市・村落を中核に設定した事象の成立条件)を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付け多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域(中国・四国地方)について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

POINT

○「内容のまとめ」と「単元」の大小関係に着目した評価規準の作成については、参考資料 P.37~42 を参照してください。



2 3観点の評価規準設定上の留意事項

知識・技能

- 知識については、社会的な事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関する知識を獲得するように学習を設計します。
- 技能については、「中学校学習指導要領解説 社会編 P.186~187」に示されている「社会的な事象等について調べまとめる技能」を踏まえて学習を設計します。
- 単元の目標及びその評価規準において、細かな事象を羅列して、その習得のみを求めることがないようにします。

思考・判断・表現

- 各単元において、それぞれの「見方・考え方」を踏まえ、具体的な「視点」等を組み込んだ評価規準を設定します。
- 単元を見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的な事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握しその解決に向けて構想したりする学習展開を意識します。

主体的に学習に取り組む態度

- 予想や学習の見通しを立てたり(粘り強い取組)、学習を振り返ったり見直したり(自己調整)しようとする側面を評価します。
- 社会科ならではの「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」が必要であることを踏まえ、ある程度長い区切りの中で評価していくことも考慮します。
- 「生徒が見通しを立てる機会を設けること」「学習を振り返る機会を設けること」「教師や他の生徒による評価を伝えること」を大切にします。

3 単元及び本時における学習評価の進め方

事例(地理的分野) C(3) 日本の諸地域 【評価場面の精選 ~重点化と系統化~】

□ 単元の評価規準(再掲)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・幾つかに区分された日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ・①から⑤までの考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付け多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

POINT【系統化】
○小項目(各地方)の学習が進むにつれ、同じ観点の評価規準でも求める水準が高まっていきます。

□ 単元の評価計画例<川崎市の学校の場合 全32時間>

地域<「考察の仕方」の中核事象>	評価の観点			重点化、系統化により精選した評価規準例
	知	思	態	※重点化 ○:評定に用いる評価 ●:学習改善につなげる評価 ※系統化 実線:技能 波線:思考 二重線:態度
地域区分			●	●日本の諸地域の学習に見通しをもって取り組もうとしている。
	知○ 技●			○冷涼で広大な自然を開発してきた北海道地方の地域的特色を理解している。 ●教師によって提示された資料基に、そこから読み取った情報を適切に文章化している。
中部地方<産業>	知○ 技●			○農工業の盛んな中部地方の地域的特色を理解している。 ●教師によって提示された資料を基に、そこから読み取った北陸・中央高地・東海の3地域それぞれの情報を適切に文章化している。
九州地方<自然環境>	知○	●		○台風がよく通り多くの火山を抱える九州地方の地域的特色を理解している。 ●自然災害を防いだり減らしたりする工夫や、自然を生かした産業の工夫など、人々の生活と自然との関わりを損害と恩恵の両面から捉えて、文章でまとめている。
中国・四国地方<人口や都市・村落>	知○		○	○人口減少、人口偏が見られる中国・四国地方の地域的特色を理解している。 ○都市部と山間部や離島における地域づくりの取組を、それぞれの地域性の違いから捉えて、ウエビング図やヤベン図を用いてまとめている。
東北地方<交通や通信>	知○ 技○			○格子状に交通網が整備されている東北地方の地域的特色を理解している。 ○教師によって提示された資料を基に、そこから読み取った情報を、文章とともに適切にグラフ化、図表化している。
近畿地方<産業>	知○		○	○環境を保全し、観光産業の育成を図る近畿地方の地域的特色を理解している。 ○町並み保全の理由を、日本の古都としての歴史的背景や観光資源としての側面を踏まえ「環境の保全と産業振興の両立」の視点から考えたことを、図や文章を用いてまとめている。
関東地方<既習の考察の仕方を生かして>	知○ 技○		○	○人口や産業が集中している関東地方の地域的特色を理解している。 ○生徒自身が収集した情報を基に、そこから読み取った情報を、文章とともに適切にグラフ化、図表化している。 ○東京への一極集中を、人口や産業施設などのハードや、情報や管理機能などのソフトの両面から捉えるとともに、一極集中によるメリットとデメリットの両側面を踏まえ、「持続可能な地域づくり」の視点から考えたことを、図や文章を用いてまとめている。 ○日本の諸地域学習のまとめとなる関東地方の学習を経て、地誌学習に粘り強く取り組むとともに、自己の学習を振り返り、「地域の在り方の学習」につなごうとしている。

POINT【重点化】
○各地方それぞれに三観点全ての評価場面を設定するのではなく、ある程度長い区切り(七地方)を通して、バランスよく評価場面を設定しています。

系統化

技能
思考・判断・表現

表現方法の工夫
考察の度合いの深まり
等



「知識・技能」
・「技能」は単元前半で「学習改善につながる評価」(●)を行い、重点化を図っています。
・「知識」は各地方固有の地域的特色を理解するため、各地方で「評定に用いる評価」(○)を行っています。

「思考・判断・表現」
・単元前半の各地方で学習した視点を生かして、単元後半の各地方の地域づくりにつなげて考えることを期待しています。
・後半の三つの小単元で、「評定に用いる評価」(○)を行い、重点化を図っています。

「主体的に学習に取り組む態度」
・単元の冒頭で、学習に見通しをもって取り組めるよう「学習改善につながる評価」(●)を行っています。
・単元の終末で、主体的に課題を追究しようとしているかを見取り、単元を通じた変容を基に「評定に用いる評価」(○)を行っています。